

八重山祖語の系列再建に向けた小浜方言の AB/C の所属資料*

セリック ケナン・麻生 玲子・中澤 光平

AB/C Tone Class Information of the Kohama Dialect for the Reconstruction of the Classified Vocabulary of Proto-Yaeyaman

CELİK, Kenan, ASO, Reiko and NAKAZAWA, Kohei

In this study, we provide the tone class (AB/C) of 924 nouns of the Kohama dialect of Southern Ryukyuan Yaeyaman. As pointed out in Celik et al. (2022), there are very few reports on the tone class of each word in the different dialects of Yaeyaman. Furthermore, among the dialects (Kohama, Kuroshima, Yonaguni) known to retain the distinction between the tone classes B and C reconstructed in proto-Yaeyaman, the tone class of each word has only been extensively documented for Yonaguni. This means that, with the presently available data, the classified vocabulary of tone classes B and C reconstructed for proto-Yaeyaman is identical to the classified vocabulary of the present-day Yonaguni dialect. However, in order to achieve an accurate reconstruction of the classified vocabulary of tone classes B and C in proto-Yaeyaman, we need to compare the tone data from all the dialects of Yaeyaman that retain the distinction between these two tone classes. Accordingly, in this study, we focus on the Kohama dialect, which retains the distinction between tone classes B and C, and, on the basis of the authors' fieldwork, provide information on the tone class of 924 nouns. With such data, we could also confirm that there is a regular correspondence between Kohama's tone classes and the tone classes reconstructed in proto-Ryukyuan. That is, Kohama's AB tone class corresponds to proto-Ryukyuan tone classes A and B while tone class C corresponds to the proto-Ryukyuan tone class C. However, some words belonging to tone class C seem to correspond to proto-Ryukyuan tone class B. Using the data, we hope to achieve a more accurate reconstruction of the classified vocabulary of classes B and C in proto-Yaeyaman.

Keywords: Yaeyaman, Kohama dialect, Classified vocabulary, proto-Yaeyaman, word-prosodic system

キーワード: 八重山語, 小浜方言, 所属語彙, 八重山祖語, アクセント

* この研究は以下の助成を受けている：科研費 18K12390, 19K13174, 20H01259, 21H00353, 22KF0370。本稿は 2022 年 6 月 7 日開催の第 240 回 NINJAL サロンで「八重山語のもう 1 つの 3 型アクセント体系の発見：小浜方言の韻律体系に関する調査報告」の題で発表したものを敷衍した内容となっている。なお、インフォーマントをご紹介くださった波照間永吉先生（名桜大学）および調査にご協力くださった小浜方言のインフォーマントの皆様にご心より感謝を申し上げます。



- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. はじめに | 3. データ |
| 2. 小浜方言 | 4. 収録枠文におけるアクセント型の実現 |
| 2.1 概要 | 5. 琉球祖語の系列との対応 |
| 2.2 先行研究 | 6. 所属語彙 |
| 2.3 アクセントに関する先行研究 | |

1. はじめに

セリック・麻生・中澤 2022 で指摘されたように、南琉球八重山語諸方言については、各語がどのアクセント型に所属するかの情報（以下「所属情報」）に関する報告が少ない。その中でも特に、八重山祖語の B 系列と C 系列の対立を保持した方言（小浜、黒島、与那国）に関して所属情報が報告されているのは与那国方言だけである。そのため、八重山祖語の B 系列と C 系列を正確に再建するための基盤は現在も構築中であると言える。以上を踏まえ、本稿では八重山祖語のアクセント系列の再建に向けて、祖語の AB と C の対立を明瞭に保持している小浜方言を取り上げ、その名詞の所属情報（ab 型/c 型）の提示を行う。

2. 小浜方言

2.1 概要

小浜方言は、沖縄県八重山郡竹富町字小浜で伝統的に話されている言語である¹⁾。小浜島は、石垣島と西表島の間に位置し、石垣島石垣港からの所要時間はフェリーで 30 分程度である（図 1）。ローレンス 2000 によると、小浜方言は系統的に八重山語に属し、その中でも西表島古見方言と最も近く、次いで黒島方言や竹富方言、鳩間方言と近いとされる²⁾。

令和 4 年度の八重山郡竹富町の統計によると、小浜島の人口は 728 人（令和 4 年 3 月末時点）である（竹富町 2022）。小浜方言の話者人口に関して、Davis 2018 はその当時の段階で 100 人未満だと推定している。

2.2 先行研究

小浜方言を扱った先行研究は多くはない。音声・音韻（音素）・文法を扱ったものには、平山・他 1967、琉大方言研究クラブ 1969、仲原 2004, 2005 や Davis 2018, 2019 があり、本稿と関係するアクセントに関しては上村 1959、平山・他 1967、松森 2015 に簡略的な記述がある。

この他に、話者による語彙集が 3 点確認されている（高原 1980、記念誌編集委員会編 2010、宮里 2018）。ただし、いずれもアクセント情報は掲載されていない。

-
- 1) 仲原 2004 によると、小浜方言の音素体系は子音 16 個（/p, b, t, d, k, g, s, z, c [ts] ~ [tʃ], m, n, r, w, j, h, ' [ʔ]/）と母音 6 個（/i, ī, e, a, u, o/）からなる。上記の他に /R, Q, N/ の拍音素を認めている。これに対して、Davis (2018) は /' / を子音音素として認めておらず、さらに拍音素は用いていない。本稿では、Davis 2018 の分析に従う。ただし、語形は IPA で提示する。
- 2) ローレンス 2000 では、小浜方言は西表島の上原にも近いと述べられているが、当該論文で上原方言として扱ったデータの話者は、ほぼ鳩間方言話者であったと訂正があった（ローレンス p.c.）。そのためここでは上原方言について言及していない。

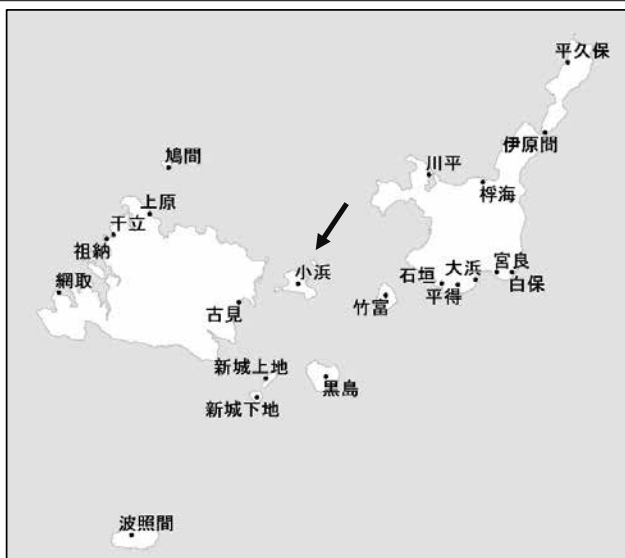


図1 八重山諸島と字の名

2.3 アクセントに関する先行研究

小浜方言のアクセント体系を扱った3点の先行研究について述べる。まず上村1959は、通方言的な研究の一環として、小浜方言の28語に対して単独で発話される場合と、属格助詞 *nu* を後続させたときのピッチパターンを記述した。本地点に関する個別の詳細な記述はないが、類別語彙における類の統合は123/45である（類別語彙2音節名詞第1・2・3類が第4・5類と区別されている）という結論を示した。現在の通時的枠組み、つまり琉球祖語の系列（松森2000a, 2000b）で再解釈すると、小浜方言はAB/Cの体系（A・B類がC類と区別されている体系）を持つことになる。

次に平山・他1967: 55–57は、小浜方言のアクセント体系に関してもう少し詳しく記述を行っている。平山によると、小浜方言の名詞アクセント体系は2拍語に2つ（頭高型・尾高型）、3拍語に3つ（頭高型・中高型・尾高型）、4拍語に同じく3つの型を認めた。平山の例を(1)に示す。例ではピッチのピークが実現する拍を[○]（「○」は任意の拍）のようにマークする。なお、本論文では「拍」を「モーラ」の意味として用いる。

(1) a. 頭高型

- | | |
|-----------------------|----------|
| [u]sʉ, [u]sʉnu... | 「牛, 牛が…」 |
| [pə]ŋa, [pə]ŋanu... | 「鼻, 鼻が…」 |
| [ki]:, [ki]:nu... | 「毛, 毛が…」 |
| [ka]:ra, [ka]:ranu... | 「川, 川が…」 |

b. 中高型 (3拍語以上)

- | | |
|---------------------------|----------|
| fʉ[ta]i, fʉ[ta]i,nu... | 「額, 額が…」 |
| tsi[ka]ra, tsi[ka]ranu... | 「力, 力が…」 |

c. 尾高型

[usʉ], usʉ[ɲu]... 「臼, 臼の…」

pə[ɲa], pəɲa[nu]... 「花, 花が…」

[ki:], ki:[nu]... 「木, 木が…」

平山・他 1967: 56 より抜粋 (表記の一部を改変)

尾高型については、単独では語末が高ピッチで実現するのに対して、属格・主格助詞 nu が後続する環境では高ピッチが nu の方に移ると述べられている (1c)。また、明記されていないが、記述されている例から、尾高型で実現する高ピッチはそれを担う単位が音節であることが読み取れる (「木」の例)。

3拍以上の語には「中高型」という型を認めているが、所属語彙を見ると、報告されている「頭高」と「中高型」は同じ系列 (A 系列) に対応していることが分かる。その上、中高型に分類される語 (の殆ど) は無声化した音節から始まるのに対して、頭高型に分類される語にはそのような特徴が見られない (2)。つまり、「頭高型」と「中高型」は第 1 音節の有声性に基づいて相補分布している。第 1 音節が無声化する場合、ピッチの下降が 2 音節目に移るというルールを想定すれば、頭高型と中高型を同じアクセント型の異音として解釈できる。もっとも、本研究の予備的結果では下降の位置 (1 拍目か 2 拍目) による型の対立を確認できていないため、平山の「頭高」と「中高」の型は同じ型であると考えている。

(2) 「頭高型」と「中高型」の所属語彙 (3 拍)

a) 「頭高型」: akʉpɪ 「欠伸」, ka:ra 「川」, aburu 「扇」

b) 「中高型」: haɲatsi 「鼻血」, fʉtai 「額」, tsɪkara 「力」, pətatsɪ 「二十歳」

最後に松森 2015 について述べる。松森 2015: 71 は複合名詞のデータをもとに小浜方言は三型のアクセント体系を持つと主張し、各アクセント型の音韻的な解釈を提示している。具体的には、hataki 「畑」を後部要素とする 10 語の複合名詞を扱い、これらを入れたいくつかの本文の音調データを報告している。表層で実現するピッチパターンから、前部要素の単純名詞はそれぞれ対立する 3 つのアクセント型 (a 型・b 型・c 型) が区別されると主張する (3)。

(3) a 型

[gusu] hataki 「唐辛子畑」 [gusu] hataki ngeedu 「唐辛子畑へぞ…」

[bira]n hataki 「ニラ畑」 [bira]n hataki ngeedu 「ニラ畑へぞ…」

[ak]kon hataki 「芋畑」 [ak]kon hataki ngeedu 「芋畑へぞ…」

b 型

[mu]i hata[ki] 「麦畑」 [mu]i hata[ki] ngeedu 「麦畑へぞ…」

[ma]mi hata[ki] 「豆畑」 [ma]mi hata[ki] ngeedu 「豆畑へぞ…」

[gu]ma hata[ki] 「胡麻畑」 [gu]ma hata[ki] ngeedu 「胡麻畑へぞ…」

c 型

sjin[zja] hataki 「砂糖黍畑」 sjin[zja] hataki ngeedu 「砂糖黍畑へぞ…」

goo[ja] hataki 「苦瓜畑」 goo[ja] hataki ngeedu 「苦瓜畑へぞ…」
 nabee[ra] hataki 「ヘチマ畑」 nabee[ra] hataki ngeedu 「ヘチマ畑へぞ…」
 tama[naa] hataki 「キャベツ畑」 tama[naa] hataki ngeedu 「キャベツ畑へぞ…」
 松森 2015: 72–73 より抜粋（表記の一部を改変）

さらに、各アクセント型の音韻的解釈を行うにあたり、宮古語と同様に、文節と音節という単位の間位置する「韻律語」という韻律単位を想定し、その単位を参照しながら、解釈の試案を提案している(3)。韻律語の詳細については五十嵐 2015, 2016 やセリック 2020 などを参照されたい。おおまかに言うと、語彙的意味を持つ語根から成る語（gusu「唐辛子」、biran「ニラ」、akkon「芋」、hataki「畑」など）と2拍以上の長い接語（kara「～から」、ngee「～へ」など）がそれぞれ1つの韻律語を形成するというものである。この単位を想定すれば、(3)のピッチパターンを(4)のように一般化できることが確認できる。

(4) 小浜方言のアクセント型の音韻的解釈（松森 2015: 73）

- a 型：1つ目の韻律語の2拍目の後に下がり目が指定されている
- b 型：2つ目の韻律語の末尾音節が高い
- c 型：1つ目の韻律語の末尾音節が高い

松森の以上の複合語に関するデータからすると、小浜方言の単純名詞が琉球祖語ないし八重山祖語の A/B/C の対立を保持した三型アクセントである可能性がうかがえる。すなわち、上記の複合語で見られる音調の対立が前部要素のアクセント型の表れであるとするならば、単純名詞において3つのアクセント型が対立することになる。しかし一方で、複合語で見られる対立が複合語特有の対立である可能性もある。そのため、単純名詞でも A と B の対立が保持されているかを確かめるためにさらなる検証が必要である。しかし、筆者らの調査でも現段階では詳細な情報が得られなかったため、小浜方言の韻律体系に関する詳細な記述は別稿に譲り、以下に述べる理由から、先に名詞 924 点の AB/C の所属を報告する。

八重山語の中で、単純名詞において琉球祖語の B 系列と C 系列の区別を保持する方言として報告があるのは、他に与那国方言と黒島方言のみである。しかし、現状では八重山祖語の B 系列と C 系列を再建するにあたり、唯一、網羅的な報告のある与那国方言のデータ（上野 2010, 2011a, 2011b, 2013, 2014, 2016 や与那国方言辞典編集委員会 2021 など）を拠り所とせざるを得ない³⁾。つまり、現段階で再建されている八重山祖語の B 系列と C 系列は事実上与那国方言の所属そのものである。しかし、本来、両系列を再建するための作業は、B と C の区別を保持した全ての方言のデータが揃って実施されることが理想である。このことから小浜方言の AB/C の所属情報は、八重山祖語の B 系列と C 系列を再建するための基礎資料となり、それを報告する意義は大きいと言える。

3. データ

本研究のデータは 2022 年 4 月と 2022 年 5 月に行った調査で得られたものである。協力者

3) 平山 1967 には、黒島方言について ab/c の名詞のアクセント型の所属が報告されているが、370 語程度にとどまっている。

は小浜出身で現在は石垣市に在住の男性話者2名（話者A：昭和10年生と話者B：昭和13年生）である。本稿では話者Aの資料を報告する。

音声データの収集は、Marantz社PMD561（録音機）とSHURE社SM35XLR（マイク）のセット、あるいはZoom社H4n（マイク内蔵録音機）を使用して行った。調査票（読み上げリスト）は協力者の一人がご自身で執筆された『クモーマ スマヌ、クトゥバ』中の名詞（2拍～）から適宜選んで作成した。

4. 収録枠文におけるアクセント型の実現

調査では、小浜方言のAB/Cの所属を調べるために「～の話をします」という枠文を使用した。この枠文では2つの対立するアクセント型（本稿でab型・c型と呼ぶ）が観察される。これらのアクセント型の実現は以下の通りである。

属格助詞=nu「～の」が後続した環境では2通りのパターンが観察される。1つ目は下降が実現するパターンで、ab型に該当する。基本的には語頭から2拍目に高ピッチのピークが実現した後、属格助詞=nuも含め後続する拍がすべて低ピッチで実現する（例では接語境界を「=」で示す）。

(5) 下降パターン（ab型）

- a) ma[i]=nu... 「米の…」
- b) ma[mi]=nu... 「豆の…」
- c) ka[:]ra=nu... 「川の…」
- d) fɯ[tsi]=nu... 「口の…」

2つ目は上昇が実現するパターンで、c型に対応する。属格助詞=nuが後続する環境では語頭から=nuの直前までの拍が低ピッチで実現し、属格助詞=nuが高ピッチで実現する(6)。

(6) 上昇パターン（c型）

- a) mai=[nu]... 「前の…」
- b) nabi=[nu]... 「鍋の…」
- c) nubui=[nu]... 「首の…」
- d) fɯtsi=[nu]... 「草鞋の…」
- e) ka:ra=[nu]... 「瓦の…」

(5)と(6)を比較すると分かるように、ミニマルペアが見つかっている（「米」／「前」、「川」／「瓦」その他多数）。このことから、この環境で観察されるピッチパターンの違いは語彙的に決まっていると解釈できる。したがって、先行研究の通り、小浜方言の単純名詞は少なくとも2種類のアクセント型を区別していると言える。

5. 琉球祖語の系列との対応

琉球諸語に観察されるアクセントの区別は、琉球祖語にあったアクセントの反映であると考

えられており、これまでの研究から、祖語にあったと想定される3つのアクセントのグループをA系列、B系列、C系列と呼んでいる（松森 2000a, 2000b）。本節では、祖語（のアクセント型）を再建することを目的とした語彙リストである五十嵐 2019 のデータをもとに、琉球祖語の系列と小浜方言のアクセント型との対応関係を論じる。

五十嵐 2019 に基づき、小浜方言の「X=nu…」におけるアクセント型と琉球祖語との対応を確認したところ、(11) のようになった。

(11)A 系列：ab 型 ([ako:pɨ]「欠伸」, [i:ru]「西」, [itsu]「魚」, [ui]「上。頂」, [ussɨ]「牛」, [ka:]「井戸」, [kai]「蟹」, [kɔtsa]「蚊張」, [gama]「洞窟。暗渠」, [kandza]「匂い」, [kibussɨ]「煙」, [kintsɨ]「傷」, [kɔtsɨ]「腰」, [kɔba]「檳榔」, [kɔbi]「壁」, [kungani]「黄金」, [sɔki]「酒」, [dʒin]「お膳」, [sɨta:]「下」, [sɨmu]「下」, [sundi]「袖」, [tai]「壁蝨」, [tɔki]「竹」, [tɔpi]「旅」, [tɔmi]「爪」, [tɔin]「天」, [tɔintsɨ]「頂。頂上」, [tsɨbu]「壺」, [tɨra]「寺」, [tɨra]「寅」, [turu]「鳥。鶏」, [tuntsɨ]「妻。刀自」, [to:]「くぼみ。低地」, [niɨ]「北」, [ne:ru]「右」, [pa:]「葉」, [pai]「蠅」, [pai]「灰」, [pɔtsɨ]「橋」, [pɔni]「羽。翼」, [pɨma:]「暇」, [pɨsima]「昼」, [pɨtu]「人」, [pɨru]「にんにく」, [fupɨ]「頸。首」, [fɨtai]「額」, [fɨtɨ]「癖」, [fɨtsɨ]「口」, [pɨtsɨ]「星」, [butu]「夫」, [bunaru]「姉妹」, [furu]「陰囊」, [fun]「釘」, [fun]「着物の衿」, [fundu]「身体。体」, [pe:re]「旱魃」, [mai]「米稻」, [mi:ka]「三日」, [mintsɨ]「水」, [mussɨ]「虫」, [me:]「広場」, [ju:]「柄」, [ju:]「世。時代」, [ju:ki]「手斧」, [juta]「古い師」, [jumi]「嫁」, [jurasɨ]「篩」, [junda]「枝」, [nni]「胸」, …)

B 系列：ab 型 ([a:]「粟」, [a:i]「汗」, [a:iibu]「汗疹」, [a:na]「穴。孔」, [aba]「油。脂」, [ami]「雨」, [an]「網」, [i:]「ご飯」, [imi]「夢」, [untʃa]「鶉（うずら）」, [ka:]「皮」, [kaina]「肩」, [kɔmatsɨ]「顎」, [kɨmu]「心。精神」, [kin]「稗」, [dʒin]「お金」, [sɨta]「舌」, [sɨma]「鳥」, [ta:ra]「俵」, [tɔki]「丈。長さ。高さ」, [tɔku]「蛸」, [tɔni]「種子」, [tsɨna]「縄」, [tsɨnu]「角」, [tsɨra]「顔」, [duru]「泥」, [nai]「苗」, [nai]「地震」, [nan]「波」, [nanda]「涙」, [nun]「鑿」, [pa:]「刃」, [pa:]「歯」, [fɨmo:]「雲」, [mako:ra]「枕」, [mara]「陰莖。男根」, [mita]「土」, [minu]「蓑」, [min]「耳」, [mui]「麦」, [muti]「顔」, [munu]「物。食物」, …)

C 系列：c 型 ([a:sa]「ひとえ草」, [a:pisa]「家鴨（あひる）」, [au]「連れ。伴侶。連れ添い」, [akentsɨ]「蜻蛉」, [atu]「後。跡」, [iki]「息」, [iru]「錐」, [in]「海」, [uka]「借金。負債」, [ussɨ]「白」, [ka:gi]「容姿」, [kai]「陰。影。日陰」, [kɔta]「蝗」, [gandzan]「蚊」, [kantsɨ]「数」, [kju:]「今日」, [kui]「声」, [gusan]「杖」, [kɔtuba]「言葉」, [sai]「白髪」, [san]「虱」, [sɨtundi]「朝」, [sɨra]「梢」, [ta:pi]「足袋」, [ta:ngu]「担桶」, [tɨinda]「太陽」, [tsɨburu]「頭」, [tsɨburu]「瓢箪」, [turu]「ランプ」, [nasaki]「情け」, [nabi]「鍋」, [nabera]「へちま」, [nibu]「柄杓」, [nun]「蚤」, [pai]「足」, [pɔtsɨ]「箸」, [pingan]「彼岸」, [pɨturu]「一人」, [fɨtɨbi]「疣」, [fɨtɨru]「葉」, [fɨtsɨ]「蓬」, [funabu]「みかん」, [fɨni]「骨」, [fɨni]「船」, [po:ki]「箒」, [po:tsa]「包丁」, [ma:su]「塩。（真塩）」, [ma:ru]「毬」, [mai]「前」, [makondza]「百足」, [jai]「来年」, [jarabi]「童」, [jusɨki]「薄」, …)

後述する少数の例外を除いて、祖語のA系列とB系列には小浜方言のab型が対応し、祖語のC系列には小浜方言のc型が対応する。このことから、小浜方言のアクセントは新たに生じた区別ではなく、祖語にあった区別を継承していることが分かる。そのため、小浜方言の

アクセントをもとに、他の方言との通時的関係が明らかになる可能性がある。

例外としては、(12)のように祖語のB系列にc型が対応するものがやや目立つ。

- (12) B 系列 : c 型 ([ituma:]「暇。休暇」, [inatsi:]「命」, [iru]「色」, [uja]「親。両親」, [uŋ]「鬼」, [kaṣsa]「笠」, [kankan]「鏡」, [tuŋsi:]「年齢。歳。年」, [naru]「実」, [pai]「南」, [paŋa]「花」, [fuŋsi:]「櫛」, [mina]「巻貝。蝸」, [muni]「言葉」, [jamatu]「大和」, [ju:]「夜」)

共時的には小浜方言のab型とc型がどの環境でも対立しているため、このB系列:c型の対応が何を意味するかは検討を要する。現在のようなアクセント型になる前に起きた変則的な変化か、祖語のB系列とC系列が合流している他の八重山語の影響などが考えられる。前者の場合、変則変化は八重山祖語、またはそれ以前の段階で生じた可能性もあり得る。例えば、「親」が宮古諸方言でもc型に分類される(セリック 2020)ため、小浜方言のこの所属情報が南琉球の中で果たして「例外」としてみなされるべきかという点には、議論の余地がある。これを検証するに当たっては、B系列とC系列の対立を保持する黒島方言のデータが有効となるであろう。

ローレンスの一連の研究(ローレンス 2006, 2008 など)では、アクセントの不規則な改新が方言間の系統関係の推定に利用されている。ローレンス 2020によれば、(与那国を除く)鳩間・石垣・竹富・古見などの中核八重山の諸方言では、*pibiza「山羊」が琉球祖語のC系列からA系列に変化しているとされる。今回の小浜方言の調査でも、pi:tʃa, pibitʃa「山羊」はab型のアクセントで発音された。小浜方言のab型はA系列に対応するため、小浜方言でもC系列からA系列対応型への変化が生じたことが分かり、小浜方言が系統的にも中核八重山方言に属することが示唆され、ローレンスの仮説が支持される。

6. 所属語彙

話者Aの調査をもとに924語の名詞について所属情報を提示する。全ての名詞はX=nu hanasi=wa sarirun=ju:「Xの話を上申します」の枠文で調べた。名詞に対して、宮里 2018の『クモーマスマス、クトゥパ』における仮名表記、実際の発音に基づいた音声表記、アクセント型(「ab」か「c」)と簡略意味を提示する。なお、宮里 2018の仮名表記で語根境界に「,」が使用されている場合があるが、基準が必ずしも明確ではないため本稿では省略した。簡略意味は宮里 2018の意味記述を適宜に簡略化したものとなる。仮名表記については宮里 2018を参照されたい。

認定基準について補足する。2拍目の後に下降が実現した場合は「ab」と認定し、=nuの部分が高く実現した場合、「c」と認定した。しかし、提示する名詞リストの中に複合語も含まれているため、松森 2015の議論が正しければ、cの中にはb型の複合語も含まれる。同様に、ab型と認定した語の中には前部要素が2拍のc型の複合語も含まれる⁴⁾。これらの語の正確な所属を確定することは今後の課題としたい。

4) 五十嵐 2016の韻律語の定義(2モーラ以上の語根・接語)によると、属格助詞nuが付いた単純名詞は1つの韻律語を形成するのに対して、2つの構成要素から成る複合語は2つの韻律語を形成するという。松森 2015で提示された小浜方言のアクセント体系の音韻的解釈(本稿の(4)に掲載)が正しいとすると、属格助詞nuの部分が高く発音された複合語は2つ目の韻律語の末尾音節が高く発音されていると解釈されるため、これらの複合語は1つ目の韻律語の末尾音節が高く発音されるc型ではなく、b型に分類されることになる。

- アー [a:] ab 粟。
 アーサ [a:sa] c ひとえ草。
 アーシ [a:ʃi] ab 汗。
 アーシ [a:ʃi] c 塩辛。
 アーシィブ [a:ʃibu] ab 汗疹。
 アーナ [a:na] ab 穴。孔。
 アーピサ [a:pisa] c 家鴨 (あひる)。
 アーフア [a:fa] c 千歯。
 アーブク [a:buku] c 泡。
 アーマ [a:ma] c 姉さん。
 アームル [a:muɾu] c 泡盛。
 アーラ [a:ra] ab 蟻。
 アーレ [a:re:] c 慌て者。
 アウ [au] c 連れ。伴侶。連れ添い。
 アウイル [auiru] ab 青色。
 アウファ [aufa] c 青い草。
 アウタ [auta] c 蛙。
 アウチイ [autʃi:] c 祖父。
 アカミタ [akamita] ab 赤土。
 アカァル [aka:ru] ab 障子。
 アカイ [akai] c 貝殻。
 アカイ [akai] c 杓子。
 アカサ [akasa] c 腫れもの。出来もの。
 アカバカ [akabaka] ab 赤馬鹿。
 アクウ [aku] c 悪口。
 アケンツ [akentsi] c 蜻蛉。
 アコーピィ [ako:pɪ] ab 欠伸。
 アサイ [asai] c 母家から離れた別棟の家。
 アスタ [asita] c 下駄。
 アストゥ [asɪtu] c 明後日。あさって。
 アチニ [atʃini] c 芋を捏ねて握りにしたもの。
 アッキィ [aki] c 収穫。
 アトゥ [atu] c 後。跡。
 アトゥウイ [atu.ui] ab 後追い。
 アバ [aba] ab 油。脂。
 アバイ [abai] ab 熟れた雑穀の実が自然に落下。
 アババ [ababa] ab 唾 (おし)。
 アブル [aburu] c 扇。
 アブン [abun] c 笠 (あぶみ)。
 アボー [abo:] ab 穴。
 アマル [amaru] c 余り。
 アマングィ [amanguɪ] c 雨乞い。
 アミ [ami] ab 雨。
 アヤ [aja] ab 模様。
 アヨー [ajo:] c 肝心。
 アン [an] ab 網。
 アンスン [ansin] ab 安心。
 アンニ [anni] c お母さん。
 アンムツ [anmutsi] c 餡餅。
 イー [i:] ab ご飯。
 イーカキィピィトゥ [i:kakipɪtu] c 絵描き。
 イール [i:ru] ab 西。
 イシピャン [iʃipjan] ab 硬い石。
 イシュウ [iʃu:] ab しおひがり。
 イスゥス [iʃusɪ] ab 石臼。
 イツ [itsu] ab 魚。
 イッシュ [iʃu] c 一升。
 イツァ [itsa:] ab 洞窟。
 イッキィ [iki] c 息。
 イッチン [ittʃin] ab 一對。
 イトゥマァ [ituma:] c 暇。休暇。
 イナツツ [inatsi] c 命。
 イノー [ino:] ab 砂。
 イノーズ [ino:dzi] ab 砂地。
 イバツ [ibatsi] c 飯初。
 イビ [ibi] c 威部。
 イビラ [ibira:] c 杓子の一種。
 イミ [imi] ab 夢。
 イミ [imi] ab 使い出。
 イラキ [iraki] ab 雲脂 (ふけ)。
 イリパァ [iriba:] ab 入れ歯。
 イル [iru] c 錐。
 イル [iru] c 色。
 イルファ [irufa:] c 貰い子。
 イン [in] c 海。
 イングミ [ingumi] c 縁組。
 インギン [ingin] c 刺。
 インチャ [intʃa] c 円座。
 イントゥク [intʃuku] ab 陰徳。
 インヤァ [inja:] c 西隣の家。

- ウイ [ui] ab 上。頂。
 ウイスタ [uis̩ta] ab 上下。
 ウイスバ [uis̩ba] ab 上唇。
 ウイピトウ [ui̩p̩tu] ab 老人。
 ウーナン [uːnan] c 大波。
 ウーヤ [uːjaː] c 長兄。
 ウーヤン [uːjan] c 重病。
 ウォファ [oːfa] c 曾祖母。
 ウォチ [oːtʃeː] c 曾祖父。
 ウカ [uka] c 借金。負債。
 ウキル [uk̩ru] ab 火種。灰火。
 ウク [uku] ab 奥。
 ウクティ [ukuti] ab 牝牛。
 ウサイ [usai] c 肴。御三味。
 ウサンキ [usanki] c 兎。
 ウシマー [uʃimeː] c 祖父(土族)。老爺。
 ウシュマイ [uʃumai] c 祖父(土族)。
 ウション [uʃon] c 後頭部。
 ウタイ [utai] ab 指示。指揮。指図。
 ウタティ [utati] c 仕事に着手すること。
 ウチビ [ut̩ʃi̩bi] c 風呂敷。
 ウツ [uts̩i] ab 内。
 ウツブラ [uts̩ʃura] c 自分の実家。(内腹)。
 ウッキョ [ukkjoː] ab 茴香。
 ウッキル [ukk̩ru] ab うこん。
 ウッス [uss̩i] ab 牛。
 ウッス [uss̩i] c 臼。
 ウツマー [uts̩ʃmaː] ab 内孫。
 ウティン [utin] c 縁側から一段下げた巾の狭い縁側。
 ウナン [unan] c 牝牛。
 ウヤ [uja] c 親。両親。
 ウヤファ [ujafaː] c 親子。
 ウヤスク [ujas̩ku] c お墓。
 ウワー [waː] ab あなた。お前。君。
 ウワリ [uwari] ab 終わり。
 ウン [un] c 鬼。
 ウンキョ [unk̩i] ab 運氣。
 ウンチャ [unt̩ʃa] ab 鶉(うずら)。
 オーセ [oːse] c 旧藩時代における村役場。
 オーン [oːn] c 山芋。
- オンザー [ondzaː] c 土族の男。
 オンバー [onbaː] c 土族の妻。
 カァー [kaː] ab 井戸。
 カァー [kaː] ab 皮。
 カーギ [kaːgi] c 容姿。
 ガーキ [gaːk̩i] c 鎌。刃物(たつもの)。
 ガーキ [gaːki] c 吊りがね。
 カース [kaːs̩i] ab 炊事場から流れ出た汚水溜め。
 カーチェ [kaːtʃe] c 夏至。
 カーマ [kaːma] ab 小さな井戸。
 カイ [kai] ab お粥。
 カイ [kai] ab 蟹。
 カイ [kai] ab 長持。
 カイ [kai] ab 交換。
 カイ [kai] c 陰。影。日陰。
 カイシ [kaiʃi] c 返し。
 カイナ [kaina] ab 肩。
 カウ [kau] ab 線香。
 カカン [kakan] c 袴。
 ガキチャ [gakitʃaː] c 熊手。
 カキョ [k̩ak̩i] ab 粕。
 カキョ [k̩ak̩i] ab 囲い。
 カキョ [k̩ak̩i] ab 海垣。
 カキョ [k̩ak̩i] ab 欠片。破片。
 ガクムン [gakumun] c 学問。
 カクイ [k̩ak̩ui] ab 囲い。
 カコー [k̩akoː] c ぼろ衣。
 カサ [kaʃa] c 頭(かしら)。
 カシィ [kaʃi] c 加勢。手伝い。
 ガス [gas̩i] ab 餓死。凶年。
 カタ [kaʃa] ab 味方。
 カタ [kaʃa] c 蝗。
 カタティ [kaʃatiː] c 片手。
 カタパイ [kaʃapai] c 片足。
 カタミ [kaʃami] c 片目。一眼。
 カタミ [kaʃami] c 形見。
 カチ [kaʃi] ab 織物の縦糸(経)。
 ガチィ [gat̩ʃi] c 食いしん坊。
 カツァ [kaʃsa] ab 蚊張。
 カツァ [kaʃsa] c 笠。

- カツァ [kaṭsa] c 瘡 (かさ)。梅毒。
 カッティ [kaṭti] ab 勝手。
 カトゥ [kaṭu] ab 相続人。家督。
 カトオス [kato:si] ab 髪の虱をすき取る櫛。
 カナ [kaṇa] ab 鉋。
 カナ [kaṇa] ab その道に優れた才能 (技術)。
 カニ [kaṇi] ab 曲尺。
 カニフン [kaṇifun] ab 釘。
 ガバ [gaba] c 垢。汚れ。
 カブチャ [kaḅuṭʃa] ab 南瓜。
 ガマ [gama] ab 洞窟。暗渠。
 カマツ [kaḅmatsi] ab 顎。
 カラバタ [karabata] ab 空腹。
 ガラス [garasi] c カラス。
 カリファ [kaṛifa:] ab 枯れ草。
 カン [kan] c 上の方。
 カンカン [kankan] c 鏡。
 カンキ [kanki] c 鶏冠 (とさか)。
 ガンク [ganku] c 頑固。
 カンザ [kandza] ab 匂い。
 カンザ [kandza] c かずら。
 ガンザン [gandzan] c 蚊。
 カンジャ [kandʒa] c 鍛冶屋。
 カンツ [kantsi] c 数。
 カンドゥ [kandu] c 角。
 キイパイ [ki:pai] c 田鋤。
 キイファ [ki:fa] c 草木。
 キイムツ [kssiḃmutsi] ab 感激的な人。
 キイヌ [kiṇu] c 昨日。
 キイブン [kiḃun] ab 気絶。
 キイム [kiḃmu] ab 心。精神。
 キイン [kin] ab 稗。
 キシル [kiṣiru] c 煙管。
 キタ [kita] ab 桁。
 ギッキュ [gikkju:] ab 月給。
 キニ [kɨni] c 十千の甲乙。
 キヌ [kiṇu] ab 着物。
 キネーラ [kiṇe:ra] c 蜥蜴 (とかげ)。
 キブッス [kiḃussɨ] ab 煙。
 キヤンギ [kjaŋgi] ab 檜。
 キュー [kju:] c 今日。
- ギラ [gira] c シャこ貝。
 キンツ [kiṇtsɨ] ab 傷。
 クイ [kui] c 声。
 グイ [kui] ab 杭。
 クージン [ku:dʒin] c 小銭。
 クキイ [kuki] ab 茎。
 クキイ [kuki] c 甑 (こしき)。
 ククヌカ [kukunuka] c 九日。
 ククル [kukuru] c 心。精神。
 クサァティ [kusa:ti] ab 腰当て。
 グサン [gusan] c 杖。
 グシ [guʃi] c 酒。(五水)。
 クシキ [kusiiki] c 戸籍。
 グシヨウ [guʃo:] ab 後世。あの世。冥土。
 グス [gusi] ab 鞭。
 グス [gusu] ab 唐辛子。
 クズカイ [kudzikai] c 小使い。
 グスク [gusuku] c 石垣。
 クツ [kutsi] ab 腰。
 グッカン [gukkan] ab 極寒。大変寒い。
 クツブニ [kutsibuni] ab 腰骨。
 クツァマ [kutsa:ma] ab 押入れ。寢室。裏座。
 クッティン [kuttin] c 加減。
 クティ [kutipitsi] c 別。
 クティツ [kutipitsi] c 調味料。
 クティビツ [kutipitsi] c 別。
 グテムマ [gute:ma] ab 牡の子牛。
 クトゥ [kutu] c 琴。
 クトゥッス [kutussi] ab 今年。
 クトゥバ [kutuba] c 言葉。
 クバ [kuba] ab 檳榔。
 クバン [kuban] c 供饌。
 クビ [kubi] ab 壁。
 クビチャ [kubitʃa] ab 壁。
 クビラ [kubira] c 鵜。
 クビン [kubin] c 瓶。
 クブ [kubu] c 昆布。
 グマ [guma] ab 胡麻。
 クマタ [kumata] ab 配分。割り当て。
 グム [gumu] c ゴム。
 クユン [kujun] c 暦。

- クラ [kura] c 倉庫。押入れ。
 クリ [kuri] c これ。
 グリ [guri] c 烏賊。蛸などの墨。
 グリ [guri] c 小石。
 グリィ [guri] c お辞儀。
 クル [kuru] c 倉庫。押入れ。
 クワシャ [kwa:ʃa] c げんこつ。
 クワン [kwan] ab 金具の一種。
 グワンス [gwansu] c 元祖。
 クン [kun] ab 根気。精力。
 クン [kun] c 古見。
 クンガニ [kungani] ab 黄金。
 クンキィ [kunkĩ] ab 根気。気力。
 クンキヤ [kunkja] c ハンセン病。
 クンザラ [kundzara] c 小皿。
 クンズ [kundzu] c 昨年。
 クンダ [kunda] ab 下痢。
 クンチ [kuntʃi] c 手足にできる豆。
 クンツ [kuntsĩ] c 澱粉。
 クンドゥ [kundu] c 今度。
 コイ [koi] c 肥料。
 コー [ko:] ab 枠。
 ゴー [go:] ab 穴。洞窟。
 ゴーカ [go:ka] c 汚れ。垢。
 コーキ [ko:ki] c 材質の堅い木。
 ゴーケ [go:ke:] c 片足跳び。
 ゴーサ [go:sa] c 疥癬。
 コーニ [ko:ni] ab 男の子。
 コォハナ [ko:hana] c 線香花米。
 コーマ [ko:ma] ab 卵。木の実。
 コームツ [ko:mutsĩ] ab 供物。
 ゴーラ [go:ra] c 大きな穴。
 コッキ [kokki] c ご馳走。
 コフタ [kofuʃa] c かさぶた。
 コンズン [kondzin] c 神棚。
 ザァカン [dza:kan] ab 二十日鼠。
 ザァトゥク [dza:tuku] c 家の守護神を祀る座床。
 サーク [sa:ku] ab 仕事。
 サーラ [sa:ra] ab 三角蘭草。
 サーラ [sa:ra] c 白蟻。
 ザーリ [dza:ri] ab 空洞。
 サーレ [sa:re] c 発情。
 サイ [sai] ab おかず。副食。
 サイ [sai] ab 海老。
 サイ [sai] c 白髪。
 サイ [sai] c 知恵。
 ザイ [dzai] c 舞具。
 サイク [saiku] c 細工。
 サカマイ [səkamai] c 粳米。
 サカミツ [sakamitsĩ] ab 坂道。
 サガラィ [sangarai] c 掛けでの買い物。代金後払い。
 サキ [saki] ab 酒。
 サコー [sako:] c 咳。
 サチ [sətʃi] c 鍵。
 サナ [sana] c 傘。
 サニ [sani] c 十二支の九番目。猿。
 サネー [sane:] c 禪。
 サバ [saba] ab 草履。
 サバ [saba] ab 鮫。
 サバニ [sabanĩ] c 刳り舟。
 サピィ [sapi] c 錆。
 サビツ [sabitsĩ] ab 差別。
 サブン [səbun] c 石鹸。
 サミ [sami] ab 月桃。
 サル [saru] ab 海老。
 サン [san] c 虱。
 サン [san] c 魔除けの一種。
 サン [san] c 標識の一種。
 サンガリ [sangari] c 掛けでの買い物。代金後払い。
 シィサン [ʃi:san] c 虱。
 シィシヨ [ʃi:jo:] ab 紫蘇。
 シィパイ [ʃi:pai] ab 後の足。
 シィムヌ [ʃi:munu] ab 吸い物。
 シーブ [ʃi:bu] ab お歳暮。
 シーブ [ʃi:bu] c 競争。競り合う。
 シィヨー [ʃi:jo:] c やり方。方法。
 シキ [ʃiki] c 席。
 シキ [ʃiki] c 農地に水を取り入れるための水路。

- シキル [ʃiːkuru] ab 海鼠。
 シキン [ʃiːkin] c 世間。
 シキン [ʃiːkin] c 試験。
 シチキ [ʃiːtʃiki] ab 躰。
 シチビ [ʃiːtʃibi] ab 波打ちぎわの上の防風林。
 シチン [ʃiːtʃin] c 包み。
 シツ [ʃiːtsi] ab 節。
 シツ [ʃiːtsi] ab 節祭り。結願祭。
 シッシ [ʃiːʃi] c 煤。
 シッシ [ʃiːʃi] c 獅子。
 シッチャ [ʃiːtʃa] ab 升。
 シットゥ [ʃiːttu] c 生徒。
 シティツ [ʃiːtitsi] c 蘇鉄。
 シニ [ʃiːni] c 脛。
 シネー [ʃiːne:] c 和え物。
 シビサン [ʃiːpisan] ab 葱。
 シビシ [ʃiːbiʃi] ab こむらがえり。麻痺。
 シミ [ʃiːmi] c 執着。
 シメー [ʃiːme:] c 田畑に穀類を播種または
 熟れる頃鳥害の防鳥策。
 ジャーマ [dʒaːma] ab 乳。
 ジュー [dʒu:] c 重箱。
 シューブ [ʃuːbu] c 競争。
 シュール [ʃuːru] ab 棕櫚。
 シュワー [ʃuwa:] ab 心配。気になる。
 ショー [ʃo:] ab 消息。情報。様子。
 ショー [ʃo:] ab 正気。
 ジョントツ [dʒontsʃi] c 上手。
 シン [ʃin] c 祭事行事に招待したお客。
 ジン [dʒin] ab お膳。
 ジン [dʒin] ab お金。
 ジンカニ [dʒinkani] c お金。
 ジンギリ [dʒingiri] c お茶を入れる容器。
 シンカ [ʃinka] c 仕える者。臣下。
 シンキョ [ʃinkjo] c 選挙。
 シンシ [ʃinʃi] c 先生。
 シンジ [ʃindʒi] c 繁殖。孵化。
 シンソォ [ʃinso:] c 戦争。
 シンタ [ʃinta] ab 背後。後。
 シンツ [ʃintsʃi] c 植物などの芯。
 ジンブゥ [dʒinpu:] ab 順風。
 シンヤァ [ʃinja:] c 北隣の家。
 スゥナビ [suːnabi] c お汁鍋。
 スゥナン [suːnan] c 白波。
 ズゥスス [dziːnusi] c 地主。
 スゥバタ [subata] c 波打ちぎわ。
 ズゥフネ [dzuːfune] c 船から上陸してもな
 お船酔い気分がする。
 スゥタイ [suːtai] c 総代。
 スゥンドゥッキ [sunduuki] c 潮時。
 スカイ [ʃukai] ab 耕起。
 スクブ [ʃukubu] c 粉殻。すくも。(藻屑)。
 スクミ [ʃukumi] ab 企て。仕組み。
 スタ [ʃuta] ab 舌。
 スタァ [ʃita:] ab 下。
 スタティ [ʃutati] ab 醬油。
 スタティ [ʃutati] ab 愛撫。
 スタティ [ʃutati] ab 手を加えて育てた木。
 スッター [ʃitta:] c 砂糖。
 ストゥ [ʃitu] c お土産。
 ストゥバラ [ʃitubara] ab 小姑。
 ストゥンディ [ʃitundi] c 朝。
 スナバン [ʃunaban] ab 算盤。
 スナムヌ [ʃunamunu] ab 品物。
 スバ [ʃuba] c 側。
 スバ [ʃuba] c 蕎麦(そば)。
 スブ [ʃubu] c 糸芭蕉の地上に出た根に穴
 をあけ2~3日すると糊状の液が出る。
 スマ [ʃima] ab 島。
 スマ [ʃima] ab 相撲。
 スミヤ [ʃumija] ab 染屋。
 スム [ʃimu] ab 下。
 スム [ʃimu] ab 身内の者が自分の家から下
 の方にある親族の呼称。
 スムトゥ [ʃumutu] ab 鞭。
 スラ [ʃura] c 梢。
 スライ [ʃurai] c 皿。
 ズリ [dzuri] c 遊女。娼婦。
 スル [ʃuru] c 雑巾。
 スン [ʃun] ab 墨。
 スン [ʃun] c 炭。
 スンズル [sundzuru] c 硯。

- スンダル [sundaru] c 簾 (すだれ)。
 スンディ [sundi] ab 袖。
 セーング [se:ngu] c はまおもと。(浜万年青)。
 ソーキ [so:ki] c 穀類を篩って雑物を取り除く農具。
 ソータン [so:taN] c 相談。
 ソーベ [so:be] c 粗悪品。
 ソーマ [so:ma] c 片目。
 ソーミン [so:miN] c 素麺。
 ソーラ [so:ra] c 盆祭。(祖霊。精霊)。
 ソンガー [songa:] c 生姜。
 ターピィ [ta:pi:] c 足袋。
 ターラ [ta:ra] ab 俵。
 ターング [ta:ngu] c 担桶。
 タイ [tai] ab 壁蝨。
 タイ [tai] c 嫉妬。
 タイ [tai] c 松明。
 タイク [taiku] c 太鼓。
 ダイクニ [daikuni] c 大根。
 ダイバ [daiba] c 挿鉢。
 タカピィ [ta:kabi] c 神前に祈願する神事。
 タカタ [ta:kata] c でこぼこで突き出た高いところ。
 タカティ [ta:kati:] c 高地。高台。
 タキ [ta:ki] ab 竹。
 タキ [ta:ki] ab 丈。長さ。高さ。
 タキ [ta:ki] c 大岳。
 タキフン [ta:kifun] ab 竹釘。
 タク [ta:ku] ab 蛸。
 タクリ [ta:kuri] c 蛸や烏賊の墨。
 タクリ [ta:kuri] c 血統。家筋。
 ダス [das:] c 出汁。
 タトゥィ [ta:tui] c 例え。
 タニ [ta:ni] ab 種子。
 タバク [ta:paku] c 煙草。
 タピィ [ta:pi:] ab 旅。
 タムヌ [ta:munu] c 薪。
 タユル [ta:juru] c 便り。
 タユル [ta:juru] c 頼り。
 チィナビ [tʃi:nabi] c 柄の付いた鍋。取手の付いた鍋。
 チィピィキ [tʃi:pi:ki] ab 煮付け。
 チィネ [tʃi:ne:] c 手伝い。加勢。
 チィミ [tʃi:mi] ab 爪。
 チキムヌ [tʃi:kimunu] ab 漬物。
 チツ [tʃi:tsi] ab 大きな金槌。大ハンマー。
 チビ [tʃi:bi] ab 一番最後。最下位。
 チビブニ [tʃi:bibuni] ab 尻骨。
 チビヌミ [tʃi:binumi] ab 肛門。
 チャウキ [tʃauki] c 茶請け。お茶の友。
 チャブン [tʃabun] c 茶盆。
 チャクス [tʃa:kusi] c 長男。嫡子。
 チャトォ [tʃa:to:] c 茶湯。
 チャバン [tʃaban] c 湯呑茶碗。
 チョーシン [tʃo:ʃiN] c 薔薇。(長春)。
 チョーバ [tʃo:ba] c 上手。仕事をよくする。
 チョミ [tʃo:mi] ab 長命。
 チョンドゥ [tʃo:ndu] ab 丁度。
 チン [tʃiN] ab 天。
 チンダ [tʃinda] c 太陽。
 チンツ [tʃi:ntsi] ab 唾。
 チンツ [tʃi:ntsi] ab 頂。頂上。
 ツカ [tsuka] c 束。
 ツキィ [tsi:ki] ab お月様。
 ツナ [tsina] ab 縄。
 ツヌ [tsinu] ab 角。
 ツブ [tsibu] ab 急所。
 ツブ [tsibu] ab 壺。
 ツブル [tsiburu] c 頭。
 ツブル [tsiburu] c 瓢箪。
 ツマ [tsima] ab 横。
 ツムリ [tsimuri] ab 見積。
 ツラ [tsira] ab 顔。
 ツル [tsiru] ab 釣る瓶。
 ティサンツ [ti:santsi] c 手拭。
 ティチョー [tʃi:fo:] c 手帳。
 ティナー [ti:na:] c 帆をあやつる縄。手縄。
 ティナビ [ti:nabi] c 柄の付いた鍋。
 ティナライ [ti:narai] c 手習い。
 ティネー [ti:ne:] c 手伝い。加勢。
 ティパイ [ti:pai] c 手足。
 ティフキィ [ti:fuki:] c 布巾。手拭き。

- ティフチ [ti:futsi] c 手癖。
 ティマコラ [ti:makora] c 手枕。
 ティイリ [tiiri] c 手入れ。
 ティキ [tjki] ab 敵。
 ティトォ [ti:to:] c 抵当。
 ティマ [tjma:] c 手間賃。
 ティラ [tjra] ab 寺。
 ティロ [ti:ro:] c 歩くとき手の振り。
 ティンガミ [tingami] c 手紙。
 ティンガラ [tingara] c 梃。
 ティンチヨ [tintjo:] c 天井。
 ティンマ [tinma] ab 伝馬船。
 テェゲ [te:ge] c 軽率。かるはずみ。
 テェファ [te:fa] c 冗談。
 ドゥウツ [du:utsi] c 身内。
 ドゥタイ [du:tai] c 骨格の大きな人。
 ドゥブニ [du:buni] c 骨格。(胴骨)。
 トゥロイ [tyroi] ab 鳥居。
 ドゥイク [du:iku] c 休息。休憩。
 トゥイヌ [tuinu] ab 手斧。
 トゥキ [tjki] c 時計。
 トゥク [tjku] ab 仏壇。
 トゥク [tuku] c 得。有利。
 トゥク [tjku] c 徳。導き悟った立派な行為。
 ドゥク [duku] c 毒。
 トゥクン [tjkuN] c 鎌刀などの柄の付け根
 に締め付けた丸い金輪。
 トゥス [tjusi] c 年齢。歳。年。
 ドゥス [dusi] ab 友人。友達。
 トゥスウイ [tjssui] c 年上。
 トゥナル [tunaru] ab 隣。
 トゥマ [tjma] ab 苦。
 トゥラ [tjra] ab 寅。
 ドゥラン [duran] ab 銅鑼。
 トゥル [turu] ab 鳥。鶏。
 トゥル [turu] c ランプ。
 ドゥル [duru] ab 泥。
 トゥルミ [turumi:] c 取り前。
 トゥンディ [tundi] ab 集落から田畑野原
 への出入り口。
 トゥンツ [tuntsi] ab 妻。刀自。
 トゥンツファ [tuntsifa:] ab 妻子。
 トー [to:] ab くぼみ。低地。
 トー [to:] ab 大海。
 トー [to:] c 唐。中国。支那。
 トーカキ [to:kaki] c 米寿。斗搔き。
 トーサ [to:sa] ab 田草。
 トーサ [to:sa] ab 遠い所。
 トーニ [to:ni] c 豚の餌入れ。
 トーラ [to:ra] c 炊事場。
 トーリ [to:ri] c 通り。
 ドーング [do:ngu] c 道具。
 ドントゥ [do:ntu] ab 浮き。
 ナァアミ [na:ami] ab 長雨。
 ナーツァ [na:tša] ab 翌日。
 ナーニ [na:ni] ab 背中。背骨。
 ナーマ [na:ma] ab キノコ。
 ナイ [nai] ab 苗。
 ナイ [nai] ab 地震。
 ナイク [naiku] c びっこ。
 ナカス [nakasu] c 仲兄。旧藩時代の役職名。
 ナカティ [nakati:] c 中くらい。
 ナカバ [nakaba:] c 中間。
 ナカビ [nakabi:] c 中空。
 ナカヨ [nakajo:] c 中間。真ん中。
 ナカラ [nakara] c 半分。
 ナクヤ [nakuja:] c 次男。
 ナサキ [nasaki] c 情け。
 ナスタ [nasita:] c 彼たち。
 ナッケ [nakke] c 泣きむし。よく泣く人。
 ナナティ [nanati] c 七年。
 ナナハ [nanaha] c 菜っ葉。
 ナビ [nabi] c 鍋。
 ナベラ [nabera] c へちま。
 ナマドゥ [namadu] c 生け身。
 ナル [naru] c 実。
 ナン [nan] ab 波。
 ナン [nan] ab 列。
 ナン [nan] c 遺言。
 ナンガ [nanga] c 人の死後七日。
 ナンキョ [nanki] c 難儀。
 ナンザ [nandza] ab 銀。

- ナンダ [nanda] ab 涙。
 ナンバ [nanba] c 滑車。
 ニムニ [ni:muni] ab 寝ごと。
 ニームツ [ni:mutsi] c 荷物。
 ニカ [nika] c 今晚。今夜。
 ニコー [niko:] ab 藪蚊。
 ニシ [niʃi] ab 北。
 ニッツ [nitsi] ab 熱。
 ニヌファ [ninufa] c 北西。子の方向。
 ニブ [nibu] c 柄杓。
 ニマリ [nimari] ab 腐りかけた食べもの。
 ニムチャ [nimutʃa:] c 念仏。
 ニムル [nimuru] ab 居眠り。
 ニンジユ [nindʒu] ab 年中。
 ニンギン [ningin] c 人間。
 スイミ [nuimi] c 縫い目。
 スクル [nukuru] c 残り。
 スッキ [nuki] ab 織物の横糸。
 スッキ [nuki] ab 柱と柱を横に連結する横
 棧。
 スッス [nusi] c 主。
 スン [nun] ab 鑿。
 スン [nun] c 蚤。
 スンドゥ [nundu] c 喉。
 ネーク [ne:ku] c びっこ。
 ネール [ne:ru] ab 右。
 ノー [no:] ab 野原。
 ノール [no:ru] ab 糊。
 ノンカ [nonka] c 暢気。
 バー [ba:] ab 私。
 バー [pa:] ab 刃。
 パー [pa:] ab 齒。
 パー [pa:] ab 葉。
 バーキ [ba:ki] c 箆。
 バーチ [ba:tʃi] c 女中。
 バイ [bai] c 芽。
 バイ [pai] ab 蠅。
 バイ [pai] ab 灰。
 バイ [pai] c 南。
 バイ [pai] c 足。
 バイ [pai] c 礼拝。
 バイリ [bairi] ab 沸騰。
 ハカ [haka] ab 区切り。
 バカー [baka:] c 私達。我々。
 ハカイ [hakai] ab 弁償。
 バカキ [bakaki] c 若木。幼木。
 バカナ [bakana:] c 若い者。
 パカル [paʃaru] c 秤。
 ハキ [haki] c 弁償。
 バキィ [baki] c 脇。
 バキチャ [bakitʃa] c バケツ。
 バクヨ [bakujo:] c 家畜商。物々交換。
 バサ [basa] c 芭蕉。
 パサン [pasan] c 鉄。
 パシャラ [paʃara] c 俄か雨。
 バタ [bata] ab 腹。
 ハタキ [hataki] c 畑。
 バツ [paʃi] ab 鉢。
 バツ [batsi] c 太鼓を打ち叩く棒。枹(ぼち)。
 バツ [paʃi] ab 橋。
 バツ [paʃi] c 箸。
 バッパイ [bappai] c 誤り。間違い。
 ハティシ [hatiʃi] ab 齒莖。
 パトゥ [patu] c 鳩。
 パナ [pana] ab 上。頂。
 パナ [pana] c 花。
 ハナタ [hanata] ab 小高い地。丘。
 パニ [pani] ab 羽。翼。
 ピー [pi:] ab 笛。
 ピー [pi:] ab 尻。
 ピー [pi:] c 暗礁。
 ビィピトゥ [bi:piʃu] c 酔っぱらい人。
 ピィマツ [pimatsu] ab 日待ち。
 ビィムヌ [bi:munu] c 毒物。
 ヒーキ [hi:ki] c 平気。
 ピィキ [pi:ki] ab 秤。
 ピィキスウ [pi:kiʃu] ab 引き潮。
 ピィス [pssi] c 女の陰部。
 ピィチャ [pi:tʃa] ab 山羊。
 ピィマ [pima:] ab 暇。
 ビィヤ [bi:ja:] c 兄さん。長兄。
 ピィンダル [pi:ndaru] c 左。

- ピンガン [pɪŋaŋ] c 彼岸。
 ピキル [bikuru] ab 姉妹から云う男の兄弟。
 ピサ [pisa] ab 手足の甲。
 ピサ [pisa] ab 屋根の面。
 ピサタ [pɪsata] c ヤゴ。蜻蛉の幼虫。
 ピシィ [pɪʃi] c 女兒。
 ピシャ [pɪʃa] c 筆者。
 ピスマ [pɪsima] ab 昼。
 ピソィ [pisoɪ] ab 天幕。
 ビツ [bitsi] c 芯。
 ピッカル [pɪkare:] c 光。
 ピッター [pɪtta:] c 下手。
 ビッチャ [bi:ttʃa] c 酔っ払い。
 ピティ [pɪti] c 一日。
 ピティラ [pɪtira] c 一枚。
 ビトゥ [pɪtu] ab 人。
 ピトゥクィ [pɪtukui] c 一声。
 ピトゥティ [pɪtuti] c ある年。
 ピトゥフツ [pɪtufutsi] c 一口。
 ピトゥユウ [pɪtju:] c 一夜。
 ピトゥキ [pɪtuki] c 一食。
 ピトゥク [pɪtuku] c 一個。一つ。
 ピトゥル [pɪturu] c 一人。
 ピナー [pɪna:] c 火縄。
 ビバツ [pi:batsi] ab 胡椒。
 ビビチャ [pibitʃa] ab 山羊。
 ピャン [pjan] c 巣ごもりしている鶏につく羽虱。
 ピュチュナ [pju:tʃuna] ab 日中。一日中。終日。
 ピラ [pɪra] c へら。
 ピラァマ [birama] ab 葦。
 ピラァマ [birama] c 情夫。
 ピライ [pɪrai] c 付き合い。
 ピラク [pɪraku] ab 寒氣。
 ビラン [biran] ab 葦。
 ビリ [biri] ab 最後。
 ピル [pɪru] ab にんにく。大蒜。
 ビン [bin] c 溝。
 ピン [pin] ab 鬚。
 ヒンガァ [hinga:] ab 鍋の煤。
- ヒング [hingu] ab 汚れ。垢。
 ピンタ [pinta] c 揉み上げ。
 ピンダル [pindaru] c 柄杓。
 ピンツ [pintsɪ] ab 肘。
 ピンツ [pintsɪ] c 返事。
 ピンツ [pintsɪ] c 欲張り。けちんぼ。
 ビントォ [binto:] ab 弁当。
 ビンリ [binri] c 便利。
 ファムレ [famure] c 子守。
 ファー [fa:] ab 子供。
 ファヤ [faja:] c 食いしんぼ。
 ブィヌ [buinu] ab 斧。
 フッキヌ [fu:kɪnu] c 古着。古い着物。
 フッキヌ [fu:kɪnu] c 黒い着物。
 フッフォラ [fu:fora] c 染み。
 フウマイ [fu:mai] c 古米。
 フーキィ [fu:ki] ab 風鬼。(マラリヤ)。
 ブッキヌ [bu:kɪnu] c 苧麻を原料として織った着物。
 ブーサ [bu:sa] c じゃんけん。虫拳。
 フーショ [fu:ʃo] ab 褒賞。
 フウピィ [fupɪ] ab 頸。首。
 フウヤ [fu:ja:] c 古い家。
 フォルヤ [foruja] ab 便所。
 ブク [buku] ab 下手。
 フクィ [fukui] ab 埃。塵芥。
 フクラ [fukura] c 海草。
 フクル [fukuru] c 袋。
 ブケー [buke:] ab 父親。
 フコィ [fukoi] ab 練習。稽古。
 フスク [fɪsuku] ab 不足。
 フタティ [fɪtati] ab 両手。
 フタイ [fɪtai] ab 額。
 フチ [fɪtʃi] ab 癩。
 フチキ [fɪtʃiki] c 縄などに突き出た藁屑。
 フチビ [fɪtʃibi] c 疣。
 フチュクル [fɪtʃukuru] ab 懐。
 フチル [fɪtʃiru] c 藁。
 フツ [fɪtsɪ] ab 口。
 フツ [fɪtsɪ] c 櫛。
 フツ [fɪtsɪ] c 蓬。

- プツ [pʊtsi] ab 星。
 プツ [pʊtsi] c 蛭。
 プツォマ [putso:ma] ab 臍。
 フツォラ [futso:ra] ab 鎖。
 ブッス [bussɨ] ab 武士。
 ブッス [bussɨ] c 節。
 ブトゥ [butu] ab 夫。
 ブトゥティ [bututi] c 一昨日。
 フトゥキ [fʊtuki] ab 不出来。凶作。
 フトゥキ [fʊtuki] c 仏。
 ブトゥル [pʊturu] c 稲光。稲妻。
 フナイ [fʊnai] c 荷づくり。
 フナブ [funabu] c みかん。
 ブナル [bunaru] ab 姉妹。
 フニ [fʊni] c 骨。
 フニ [fʊni] c 船。
 フネー [fʊne:] c 船酔い。
 ブネー [bune:] ab 母親。
 フモー [fʊmo:] ab 雲。
 フヤ [fuja] ab 火屋。
 フユ [fuju] c 怠け者。
 ブラ [bura] c 法螺貝。
 フラー [fura:] ab 馬鹿。狂い人。
 ブリ [buri] c 失礼。
 フル [furu] ab 陰囊。
 フル [furu] ab 時計の振子。
 フルマ [fʊruma] c 大豆の鞘から実を取り出す農具。(振り回す棒)。
 ブワ [buwa] c 叔母。伯母。
 フン [fun] ab 釘。
 フン [fun] ab 着物の衿。
 フン [fun] ab 国。村。組。
 ブン [bun] c 神前の供物。
 フンドゥキ [funduki] c 箴(おさ)。
 ブンギ [bungɨ] c 恩義。
 フンキィ [funkɨ] ab 態度。
 フンシ [funʃi] c 風水。
 フンダ [funda] ab 札。
 フンダ [funda] ab 縁側。
 フンドゥ [fundu] ab 身体。体。
 フントォ [funto:] c 本当。
- フンマ [funma] c 穀物を入れる容器。
 ペー [pe:] ab 綜(へ)。
 ペー [pe:] c お汁用の柄杓。
 ペーフ [pe:fu] c 屏風。
 ペーラ [pe:ra] c 瓢箪の熟したものを立割にして穀物を掬い取る用具。
 ペール [pe:ru] ab 筵の縁。
 ペーレ [pe:re] ab 旱魃。
 ポォキ [po:ki] c 箒。
 ボォケ [bo:ke:] c 鞞(しりがい)。
 ホーチ [ho:tʃi] c 鬼。
 ポォツァ [po:tʃa] c 包丁。
 マーズゥ [ma:dzu] ab 肥沃な土地。
 マーウイ [ma:ui] ab 真上。
 マーカ [ma:ka] c 田畠の面を地均しする農具。
 マーキ [ma:ki] ab 牧場。
 マーキ [ma:ki] ab 施毛。
 マーキ [ma:ki] c 垣根。(間垣)。
 マーク [ma:ku] c 幕。
 マース [ma:su] c 塩。(真塩)。
 マータマァ [ma:tama:] ab 曾孫。
 マーニ [ma:ni] c くろつぐ。
 マール [ma:ru] ab 周辺。まわり。
 マール [ma:ru] c 輪番。
 マール [ma:ru] c 毬。
 マイ [mai] ab 米。稲。
 マイ [mai] c 前。
 マカル [makaru] c お椀。
 マコイ [makoi] ab 椰子蟹。
 マコーラ [mako:ra] ab 枕。
 マコンザ [makondza] c 百足。
 マタブイ [matabui] c 太股。
 マチャー [matʃa:] ab 商店。
 マツン [matsungi:] c まつ毛。
 マニツァ [manitsa] ab 俎板。
 ママウヤ [mamauja] c 継親。
 マミ [mami] ab 豆。
 マヤ [maja:] c 猫。
 マヨー [majo:] c 眉。
 マラ [mara] ab 陰茎。男根。

- マラバイ [marabai] ab 丸裸。
 マラキ [maraki] ab 束。
 マリ [mari] ab 生まれつき。性格。
 マリ [mari] c 希。
 マルザ [marudza] ab 丸座。丸座敷。
 マンドゥ [mandu] c 暇。
 マンジュ [mandzu] c パパイヤ。
 マンズク [mandzuku] ab 満足。
 ミイウイ [mi:ui] c 目上。先輩。
 ミイカキ [mi:kaki] ab 三切れ。
 ミイガンキョ [mi:gankjo:] c 眼鏡。
 ミイツル [mi:tsiru] c めづる (女弦)。
 ミイティ [mi:ti] ab 三年。
 ミイトゥス [mi:tus] ab 新年。お正月。
 ミイブシ [mi:busi] ab 三寸。
 ミイブス [mi:busi] ab 三節。
 ミイマイ [mi:mai] ab 新米。
 ミイムク [mi:muku] ab 新婚。花婿。
 ミイムヌ [mi:munu] ab 新しい物。新品。
 ミイムヌ [mi:munu] c 牝。
 ミイユミ [mi:jumi] ab 新嫁。花嫁。
 ミイワク [mi:waku] ab 迷惑。
 ミーカ [mi:ka] ab 三日。
 ミカク [mikaku] c 藁筵。
 ミシャク [miʃaku] ab 神酒。
 ミシュ [miʃu] ab 味噌。
 ミタ [mita] ab 土。
 ミチ [miti] c 満杯。
 ミチスウ [mitʃisu:] c 満ち潮。上げ潮。
 ミツ [mitsi] ab 道理。
 ミナ [mina] c 巻貝。蝸。
 ミナスウ [minasu:] ab 具材のないお汁。
 ミナチイ [minatʃi:] ab 手ぶら。
 ミナー [mina:] c 藁茅月桃等を用いて稲砂糖きびを縛り束ねるもの。
 ミナカ [minaka] c 庭。
 ミナマ [minama] c 今。
 ミナヤ [minaja:] ab 空き家。
 ミヌ [minu] ab 蓑。
 ミネーヤ [mine:ja] ab 棟。
 ミョートゥ [mjo:tu] c 夫婦。めおと。
- ミン [min] ab 耳。
 ミンツ [mintʃi] ab 水。
 ムイ [mui] ab 麦。
 ムイ [mui] ab 面懸 (おもがい)。
 ムウル [mu:ru] ab 全部。総べて。
 ムエー [muje:] ab 頼母子講。模合。
 ムス [musu] ab 筵。
 ムッス [mussi] ab 虫。
 ムツツ [mutsi] ab 餅。
 ムツツ [mutssi] ab 漆喰。石灰。
 ムティ [muti] ab 顔。
 ムトゥ [mutu] c 元。本。基。幹。根本。
 ムトゥ [mutu] c 原因。
 ムニ [muni] c 言葉。
 ムヌ [munu] ab 物。食物。
 ムヌシイ [munuʃi:] c 易者。
 ムネー [mune:] ab 物忌。
 ムヨー [mujo:] ab 模様。
 ムヨー [mujo:] ab 様子。
 ムレー [mure:] c 子守。
 メー [me:] ab 広場。
 メー [me:] c 終わり。
 メーク [me:ku] c 脈。
 メーメ [me:me] ab 真似。
 モーキ [mo:ki] c 儲け。
 モーキイ [mo:kʃi] ab 虹。
 モーヤ [mo:ja:] c 乱舞。雑舞。
 ヤムトゥ [ja:mutu] c 本家。
 ヤムリ [ja:muri] c 家の雨漏り。
 ヤーマ [ja:ma] ab 母家から離れた別棟の炊場。小屋。
 ヤイ [jai] c 来年。
 ヤカタ [jakata] ab 側。傍ら。端。
 ヤキ [jaki] ab 熱発。熱病。
 ヤコー [jako:] ab 櫛。
 ヤシル [jaʃiru] c 鏝 (やすり)。
 ヤマタ [jamata] c ごきぶり。
 ヤマトゥ [jamatu] c 大和。日本。
 ヤマン [jaman] ab 小さな藪。小さな山。
 ヤマン [jaman] ab 畑を鋤き起こす農具。
 ヤラビ [jarabi] c 童。

- ヤンドゥ [jandu] ab 戸。窓。
ヤンドゥ [jandu] c 宿。
ユイ [jui] ab 労働力の交換。
ユイ [jui] ab 柄。
ユー [ju:] ab 世。時代。
ユー [ju:] c 夜。
ユーイ [ju:i] c 夕食。晩飯。夕ご飯。
ユーキ [ju:ki] c 夜更かし。
ユーキィ [ju:ki] ab 手斧。
ユーチ [ju:tʃi] c 用事。用件。
ユーチ [ju:tʃi] c 冠婚葬祭。祭事行事。
ユーツ [ju:tsʌ] ab 四つ。
ユッネー [ju:ne:] c 夕方。
ユク [juku] ab 隅っこ。奥まった所。
ユク [juku] c 欲。欲張り。
ユクヤァ [jukuja:] ab 他の家。
ユクシ [jukuʃi] c 嘘。
ユスキ [jusʃki] c 薄。
ユタ [juta] ab 占い師。
ユツァン [jutsan] c 軽装な普段着。夏衣。
ユツル [jutsuru] ab 棧（えつり）。
ユナカ [junaka] ab 夜中。深夜。
ユミ [jumi] ab 嫁。
ユミファ [jumifa:] ab 嫁子。
- ユラス [jurasʌ] ab 篩。
ユリ [juri] c 許可。許し。
ユンダ [junda] ab 枝。
ヨイヤァ [jojja:] c お祝をする家。祝い家。
ヨーイ [jo:i] ab お祝。
ヨーク [jo:ka] c 弱い者。弱虫。
ヨーシ [jo:ʃi] c 養子。
ヨース [jo:sʌ] c 様子。
ヨーバ [jo:ba] c 下手。
ヨガラ [jogara] ab 痩せた者。
ラフタ [rafuta] c 豚の三枚肉を炒めたもの。
リーギ [ri:gi] ab 礼儀。
リツ [ritsʌ] ab 列。
リング [ringa] c 煉瓦。
リンキィ [rinki] c 嫉妬。
ワーツァ [wa:tsa] c 仕技。
ワーン [wa:n] c 御嶽。お宮。
ワチク [watʃiku] c 人を困らせる。悪戯。
ンギン [ngin] c 刺。
ンザリ [ndzari] ab 夜の漁。
ンゾ [ndzo:] ab 彼氏。
ンニ [nni] ab 胸。
ンブニ [nbuni] ab 重い荷物。
ンボン [nbon] c ご飯。

参考文献

- セリック, ケナン 2020 「南琉球宮古語史」未刊行博士論文. 京都大学.
セリック, ケナン・麻生玲子・中澤光平 2022 「南琉球八重山語宮良方言の名詞アクセント資料」『国立国語研究所論集』22: 157-176.
Davis, Christopher 2018 「沖縄県竹富町小浜島・八重山語小浜言葉」琉球大学国際沖縄研究所編『シマジマのしまくとぅば：平成29年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究：文化庁委託事業報告書』, 181-199, 琉球大学国際沖縄研究所.
——— 2019 「沖縄県竹富町小浜島・八重山語小浜方言の動詞活用について」琉球大学国際沖縄研究所編『シマジマのしまくとぅば：平成30年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究：文化庁委託事業報告書』, 192-209, 琉球大学国際沖縄研究所.
平山輝男・大島一郎・中本正智 1967 『琉球先島方言の総合的研究』明治書院.
五十嵐陽介 2015 「南琉球宮古語多良間方言のアクセント型の記述」『比較日本文化学研究』8: 1-42.
——— 2016 「南琉球宮古語池間方言・多良間方言の韻律構造」『言語研究』150: 33-57.
——— 2019 「日琉語類別語彙(2019年5月17日版)」https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase/_contents/detail/238738/86b4e49faf0f27bff29c1cf84fc6bc37?frame_id=729332 (アクセス2021年6月1日).
金田一春彦 1974 『国語アクセントの史的研究—原理と方法』塙書房.
記念誌編集委員会編 2010 『小浜中学校創立六十周年記念誌・ふるさとの味・しまくとぅば』小浜中学校創立六十周年事業期成会.

- ローレンス, ウェイン 2000 「八重山方言の区画について」石垣繁編『宮良當壯記念論集』, 547-559, 宮良當壯生誕百年記念事業期成会.
- 2006 「沖縄方言群の下位区分について」『沖縄文化』40: 101-118.
- 2008 「与那国方言の系統的位置」『琉球の方言』32: 59-67.
- 2020 「アクセント変化から見た琉球方言の系統樹と日本祖語音調から見た琉球祖語音調」シンポジウム「日琉諸方言系統論の展望」発表資料.
- 松森晶子 2000a 「琉球の多型アクセント体系についての一考察—琉球祖語における類別語彙3拍語の合流の仕方—」『国語学』51(1): 93-108.
- 2000b 「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発—沖縄永良部島の調査から」『音声研究』4(1): 61-71.
- 2013 「宮古島における3型アクセント体系の発見：与那覇方言の場合」『国立国語研究所論集』6: 67-92.
- 2015 「南琉球の三型アクセント体系：その韻律単位に関する考察」『日本女子大学紀要. 文学部』64: 55-92.
- 2016 「八重山諸島黒島方言アクセントの仕組み：その韻律範疇PWdと下がり目の出現条件」『言語研究』150: 59-85.
- 宮里俊治 2018 『クモーマ スマヌクトッパ』私家版. 八島印刷.
- 仲原稔 2004 「八重山小浜方言の音韻」『沖縄芸術の科学：沖縄県立芸術大学附属研究所紀要』16: 259-287.
- 2005 「小浜方言と宮良方言の音韻の比較研究」『琉球の方言』29: 107-120.
- 琉大方言研究クラブ 1969 「小浜方言」『琉球方言第』9・10: 32-91.
- 高原繁 1980 『ふるさとの味 小浜語彙』小浜郷友会.
- 竹富町 2022 「竹富町地区別人口動態票（令和4年3月末）」https://www.town.taketomi.lg.jp/userfiles/files/page/administration/toukei/jinko/doutai/jinko_list_R4_3.pdf (2022年5月16日参照).
- 上村幸雄 1959 「琉球諸方言における「1・2音節名詞」のアクセントの概観」『ことばの研究』国立国語研究所論集 1: 121-140.
- 上野善道 2010 「琉球与那国方言のアクセント資料(1)」『琉球の方言』34: 1-30.
- 2011a 「与那国方言動詞活用形のアクセント資料」『琉球の方言』35: 105-121.
- 2011b 「与那国方言動詞活用形のアクセント資料(2)」『国立国語研究所論集』2: 135-164.
- 2013 「琉球与那国方言体言のアクセント資料(2)」『琉球の方言』37: 109-142.
- 2014 「琉球与那国方言のアクセント資料(3)」『琉球の方言』38: 69-92.
- 2016 「琉球与那国方言体言のアクセント資料(5)」『琉球の方言』40: 71-105.
- 与那国方言辞典編集委員会編 2021 『どうなんむぬい辞典 第2版』与那国町教育委員会.

採択決定日—2023年6月1日